

ランチオンセミナー 17 (LS17)

上肢の外固定法

2023年

4月21日(金)

11:50~12:50

会場:第9会場

(京王プラザホテル43F スターライト)

開催形式:現地開催+オンデマンド配信

※整理券の有無に関する詳細は学術集会ホームページをご覧ください

座長



池上 博泰 先生

(東邦大学医療センター大橋病院 整形外科 教授)

演者



高畑 智嗣 先生

(岸和田徳洲会病院 整形外科 主任部長)

- 認定単位 日本手外科学会 教育研修単位1単位を取得できます。
日本整形外科学会 教育研修単位のいずれか1単位が取得できます。
必須分野:[2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、[10] 手関節・手疾患(外傷を含む)

● 「上肢の外固定法」

高畑 智嗣 先生 (岸和田徳洲会病院 整形外科 主任部長)

整形外科医の外固定技術が低下しているようで心配です。若手はもちろん中堅でも、外固定を教わり、作り、考える機会が乏しかったと思います。外固定の目標は骨の安定であり、それを軟部組織を介して行うことを意識する必要があります。

外固定は保存療法に限りません。手術予定でも術前は外固定します。その際、適切に外固定しないと患者は痛くてADLが制限されるし、骨折部周囲の腫脹は増強します。上肢の外固定でよく見る上腕～手の後方シーネは骨折には不適當で、上腕骨骨幹部骨折ならばU字シーネ(U-slab)と体幹固定の併用、前腕骨骨幹部骨折ならばバイバルブシーネを上腕部に伸ばすと骨が安定します。これらにより患者は手術まで比較的快適に過ごすことができ、小児であれば手術せずに治癒させることも可能です。

橈骨遠位端骨折の外固定は変形の防止が重視されてきました。しかしガイドラインには、関節外骨折は徒手整復施行の有無で手関節機能や患者立脚型評価に差がないとあります。すると重要なのは外固定中の上肢機能の維持であり、そのためには握ってつまめて肘が動く外固定が必要です。シュガートングは肘が動かないので不適當であり、逆シュガートングか前腕キャストを勧めます。

基節骨骨折のナックルキャスト法はおそらく手術よりも成績が良いですが、作成の難しさが問題でした。指背のシーネを手部キャストと一体化する方法だと比較的容易に作成できます。より簡素なテープハルター法(佐々木勲)は熱可塑性ギプス包帯が有用です。手指の外固定はアルミ副子が頻用されますが、シュガートング型にするとより安定します。熱可塑性ギプス包帯は指のシュガートング作成が容易ですし、腱性マレット指の外固定にも重宝します。講演では、これらの上肢外固定を動画とともに紹介します。

学会に参加しない方も対象 / DM限定企画！ コンテンツ一括視聴キャンペーン 2023年6月12日まで！



～診療に役立つコンテンツ2種をまとめてご提供～

お申し込みはこちら▶

四肢外固定の奥義 —キャスト・スプリットの作り方—

監修：高畑 智嗣 先生 (岸和田徳洲会病院)

動画版 全22種類をまとめて視聴！



運動器エコーナビ —手関節・肘関節編—

手関節編監修：岩倉 菜穂子 先生 (東京女子医科大学)
肘関節編監修：宮武 和馬 先生 (横浜市立大学)

運動器エコー解剖・画像、診断のチェックポイント、プローブの当て方など動画で解説！



疾患概要



プローブ走査



エコーガイド下注射